

(9) 四国



四国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

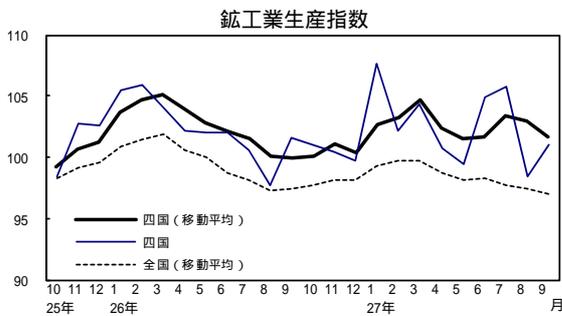
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 8 月)	今回 (平成 27 年 11 月)	
景況判断	緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さ	緩やかな回復基調	
個人消費	持ち直しの動きが続いているものの、足踏み	持ち直しの動き	
住宅建設	増加	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

7～9月期には、化学は、医薬品が生産計画の都合により増加したこと等から増加した。電気機械は、電子部品等でスマートフォン向けの需要が減少したことにより減少した。食料品は、生産計画上の都合等で増加した。はん用・生産用機械は、化学機械・貯蔵槽等が納期のタイミングにより増加した。非鉄金属は、生産計画上の都合等により電気金等で増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
化学	22.9	0.6	0.1	1.0	16.2	17.6
電気機械	15.8	9.1	4.6	1.9	1.7	5.3
食料品	10.5	0.1	2.0	1.8	2.4	0.8
はん用・生産用機械	10.0	6.7	7.4	5.9	10.7	3.5
非鉄金属	8.0	2.5	7.5	6.0	1.6	1.7
鉱工業	100.0	2.9	0.0	0.8	6.9	2.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

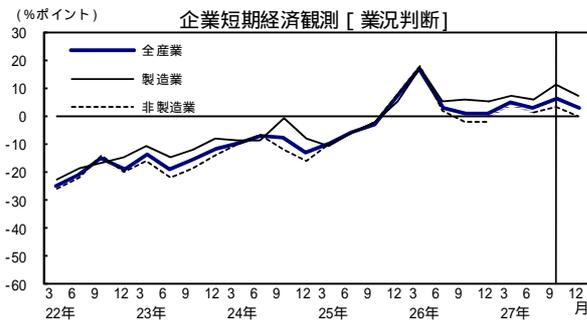
2. 7～9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。

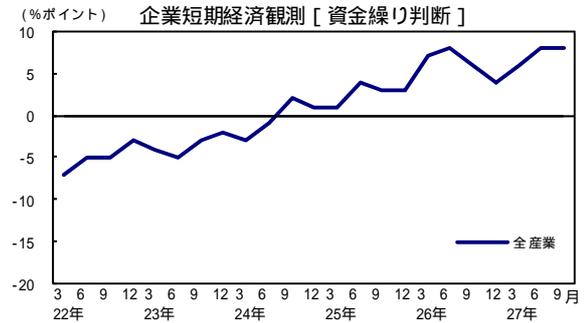
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

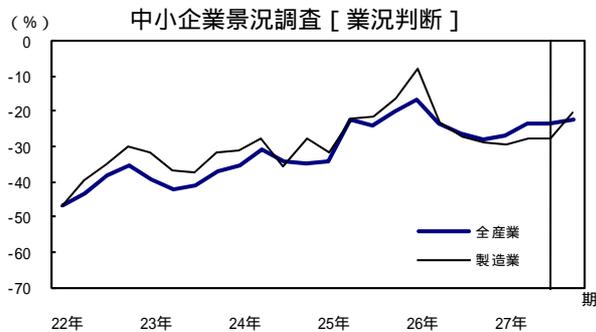
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



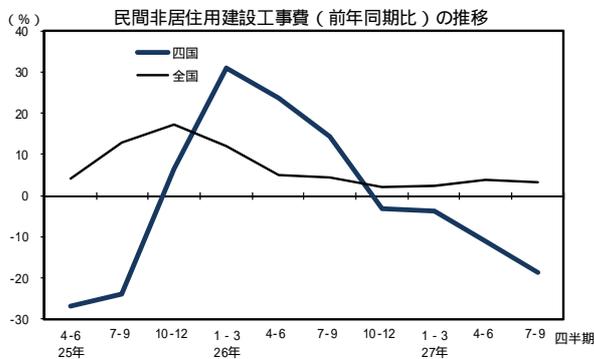
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]
「10月に入っても受注量等に大きな変化無し(通信業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績	27年度概
全産業	26.8	3.4(3.3)
製造業	63.0	2.3(6.1)
非製造業	6.1	5.1(0.7)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.6%減、8月は同1.5%増、9月は同1.2%増となった。

百貨店・スーパー販売額

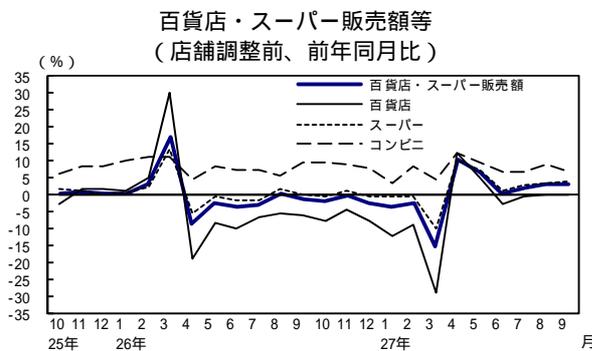
百貨店は、7月は、飲食料品で催事の減少や中元が低調だったことに加え、衣料品でセールが振るわず夏物衣料の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。8月は、身の回り品でプレミアム付商品券の利用もありハンドバックなどが好調であったことに加え、その他の商品で化粧品が堅調だったこと等から前年を上回った。9月は、衣料品で婦人服の動きが鈍かったことに加え、家庭用品は催事が振るわなかったこと等から前年を下回った。

スーパーは、飲食料品で野菜の相場高に加え、総菜が好調であったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

四国地域の家計動向関連DIは、45.7となり前月0.9ポイント低下した。

「観光シーズンに入り、9月の大型連休や通常の連休、地域のイベントなどの行事が有り、天気も良好であったが、今月も前年割れとなっている (コンビニ)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

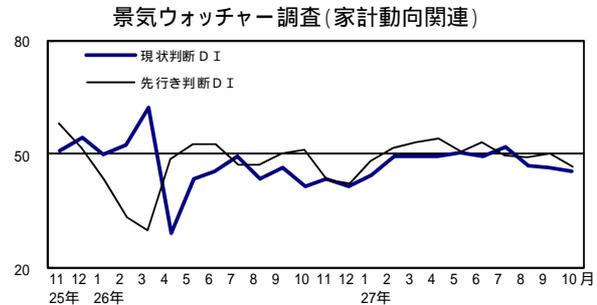
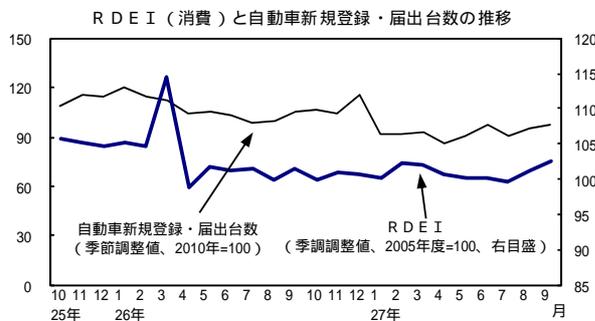


	27年7-9月	27年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.7	0.6	1.5	1.2
百貨店・スーパー(*2)	2.7	2.1	2.9	3.1
百貨店(*2)	0.1	0.3	0.2	0.0
スーパー(*2)	3.4	2.7	3.6	3.9
コンビニ(*2)	7.3	6.5	8.8	6.5
乗用車(*3)	7.8	10.0	4.6	8.0
(季節調整値)(*3)	3.4	6.6	5.3	1.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

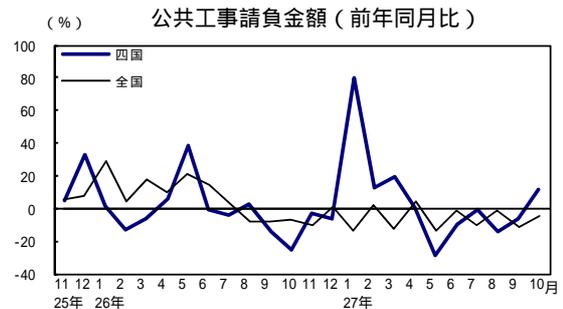
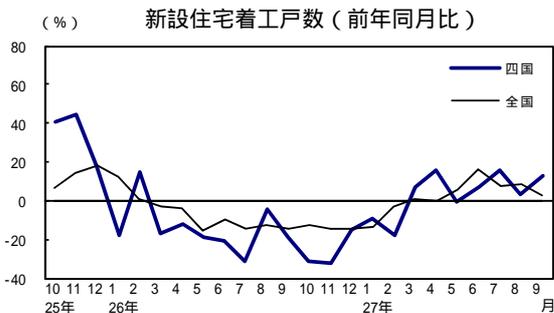
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は増加している。

持家、賃家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は27年度累計でみると前年度を下回っている。

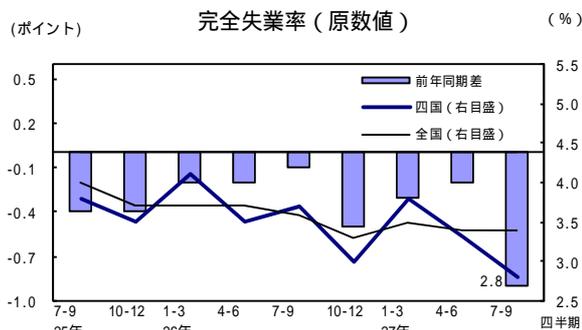
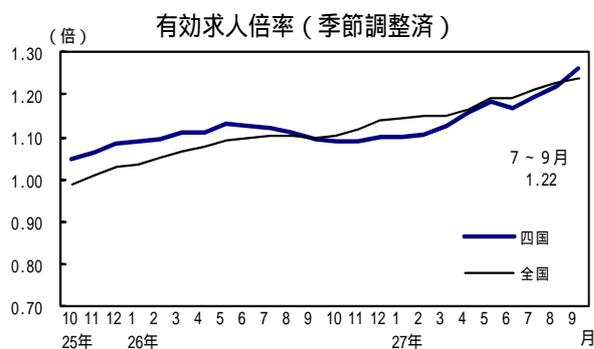


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

「中小企業を中心に、採用数に達していない企業が多く、8月以降も求人の問い合わせが継続的にある。求人数は前年と比べて3割程増加しており、来年度の求人の問合せも時々ある(民間職業紹介機関)」などの回答がみられた。

(2) 件数は大幅に減少、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年10-12月	27年1-3月	4-6月	7-9月	27年10月
倒産件数	44	57	40	36	21
(前年比)	25.7	16.3	31.0	25.0	23.5
負債総額	59	141	60	80	33
(前年比)	38.9	16.6	63.0	49.7	44.1



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・10月には週末毎に中心部の公園でイベントが開催され、また、外国客船が2回入港したこともあり、商店街にかなりの人が流れてきた。大きな売上には繋がらなかったものの、にぎわいを創出し、特に飲食を中心に、売上が増加した(商店街)

<先行き>

- ・一般消費者の所得向上が見込めず、受注量増加の期待も薄い(食料品製造業)

